



(1)



(2)

愛媛県西条市に日本基督教団 西条栄光教会があります。西条市は、瀬戸内海と石鎚山系に囲まれた自然豊かな環境にあり、国の名水百選に選ばれた「うちぬき」と言われる自噴水のある水の都でもあります。その西条市中心地に、江戸時代初期に築かれた西条藩陣屋跡のお堀の内側に県立西条高等学校と隣り合っ

て建っています。この建築は、白い礼拝堂が北東の堀端に建ち、南側に民芸風の牧師館、西側に平屋の幼稚園が建っており、それぞれが切妻の瓦屋根によって統一され、三棟が渡り廊下で繋がって園庭を囲むように群を成して堀とともに調和して佇んでいます。この建築群は浦辺鎮太郎氏のもっとも初期の仕事であり、倉敷の町づくりと同様に景観にも配慮されて、文化的価値の高い近代建築として活用しながら未来へと継承して欲しいと思います。



浦辺鎮太郎
(1909-1991)



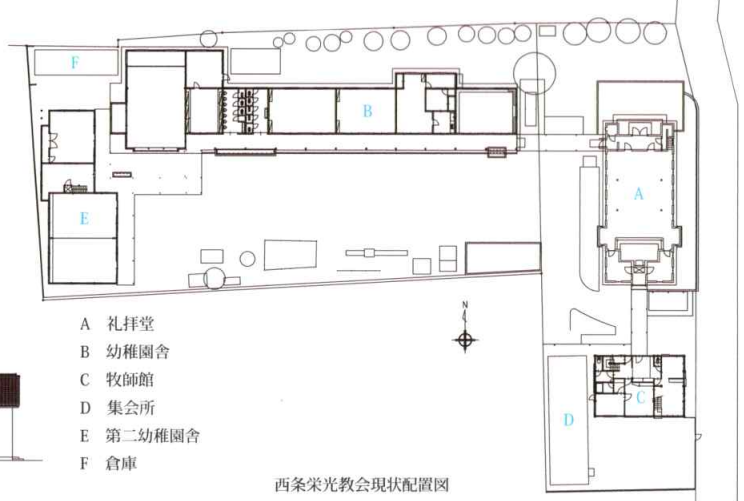
西条市



西条栄光教会現状東側全体立面図



西条栄光教会現状北側全体立面図



- A 礼拝堂
- B 幼稚園舎
- C 牧師館
- D 集会所
- E 第二幼稚園舎
- F 倉庫

西条栄光教会現状配置図



(1)



(1)



(1)



(1)



(1)



(1)



(2)

礼拝堂の入口扉は、建築当初の木製扉からアルミ扉に変更されています。その扉を開けると、濃い木壁と木レンガ床のホールがあります。木製片開き戸を開くと、低い天井から一転、漆喰の壁と天井の高い空間が現れます。天井には、濃い小屋梁が祭壇に向かって連続した正面にある白い十字架へと導きます。誰もいない時には、肅然たる空気が漂い、心が洗われていくのを感じます。この空間は、自由学園明日館(1927)にも表れていて、設計者の遠藤新の建築理論「三枚おろし」と「内在する骨格」によって構成されています。浦辺は遠藤新に師事していたこともあり、その師フランクロイドライト、アントニン・レモンド、遠藤新といったモダニズムの系譜を垣間見ることが出来ます。



(2)

礼拝堂の南側に位置し、高さを抑えた日本瓦の切妻屋根と白い壁が、お堀の情緒にあった景観を作り出しています。牧師館を大屋根とすることで、内部空間の吹抜などが立体的に豊かにし、また内外共に漆喰壁の真壁とした民芸風と併せて簡素で豊かな日本モダニズムと呼べる建築です。内部は、信者の集会和牧師の生活の公私を併せ持ち、回遊性がありながらも階段、便所を2つ設けることで動線が交わらないようにゆるやかに分節された巧みな計画となっています。



(1)



(1)



(1)



(2)

礼拝堂の西側に位置し、礼拝堂同様に日本瓦の切妻屋根と白い壁とリズムある窓で統一され、渡り廊下で繋がったファサードを成しています。一方、中庭側は水平連続窓や列柱による開放廊下の空間などモダニズム様式を取り入れています。リズム室にある出窓は、柱から独立してあることで、日土小学校のカーテンウォールに似ていて興味深いです。建築以外にも、幼稚園は教育方法がメディアに取り上げられるなど評価されています。

■ 栄光教会建築概要

- 西条栄光教会礼拝堂 木造 二階建
 - 1階床面積149.61㎡
 - 2階床面積18.63㎡
 - 延べ床面積168.24㎡
 - 渡り廊下(幼稚園舎) 19.77㎡
 - 渡り廊下(牧師館) 15.64㎡

- 西条栄光教会牧師館 木造 二階建
 - 1階床面積79.49㎡
 - 2階床面積 62.10㎡
 - 延べ床面積141.59㎡

- 西条栄光幼稚園 木造平屋建
 - 床面積278.24㎡
 - (増築部分67.07㎡除外)

■ 日本基督教団西条栄光教会略年表

- 昭和24.08.15 西条栄光教会として設立。
- 昭和26.11.01 礼拝堂、牧師館、幼稚園の献堂式。
- 昭和26.09.10 西条栄光幼稚園開園。
- 昭和39.12.20 木造二階建園舎1棟増築。
- 昭和51.04.01 宗教法人西条栄光幼稚園の経営を学校法人西条栄光協会に移管認可。
- 昭和54.03.25 リズム室と教材倉庫の増築。
- 平成30.11.23 牧師館文化財的改修。

- 写真 (1) 撮影:北村徹
- (2) 西条栄光教会所蔵写真
- (3) 現代思想研究所

- 文献 (3) 栗田勇、現代日本建築家全集12、(1976)、12頁、現代思想研究所
- (4) 川添登、建築家・人と作品、下、(1968)、138頁、井上新書